

Registered Utility Model No. 3055368

Registration Date: October 21, 1998

Application No. 10-004665

Filing Date: June 26, 1998

Applicant: YAMAMOTO, Shuji

[TITLE OF THE INVENTION] Shoe

[ABSTRACT]

[Object]

It is an object to allow a concavo-convex portion for supporting a metatarsal arch of foot bones to be readily formed in an inner sole surface in a shoe based on a Goodyear welt process.

[Feature]

A shoe comprises an inner sole formed with a rib. An upper leather, an outsole and a welt on a top surface of the outsole are sewn on the rib, and an outsole plate having a concavo-convex portion corresponding to a metatarsal arch of foot bones is disposed relative to the inner sole to allow a concavo-convex portion for supporting the arch to be formed in a surface of the inner sole.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3055368号

(45) 発行日 平成11年(1999) 1月12日

(24) 登録日 平成10年(1998)10月21日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

A 4 3 B 13/14
13/16
13/38
15/00

A 4 3 B 13/14
13/16
13/38
15/00

B

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平10-4665

(22) 出願日 平成10年(1998) 6月26日

(73) 実用新案権者 596073701

山本 修司

東京都目黒区中目黒5丁目15-8

(72) 考案者 山本 修司

東京都目黒区中目黒5丁目15-8

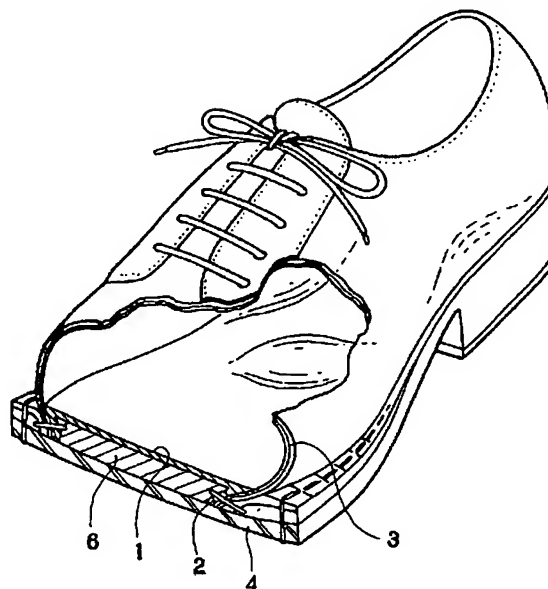
(74) 代理人 弁理士 竹内 裕

(54) 【考案の名称】 靴

(57) 【要約】

【課題】 グッドイヤーウェルト製法の靴において、中底表面に簡単に足骨の中足骨のアーチを支持する凹凸部を形成可能とすることを課題とする。

【解決手段】 中底にリブを付け、この中底リブに甲革、表底、表底上面の細革を縫い付けると共に、足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を配置して、中底表面に前記アーチを支持する凹凸部を形成したことを特徴とする。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】中底にリブを付け、この中底リブに甲革、表底、表底上面の細革を縫い付けると共に、足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を配置して、中底表面に前記アーチを支持する凹凸部を形成したことを特徴とする靴。

【請求項2】中底が、足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板であることを特徴とする請求項1記載の靴。

【請求項3】中底と表底との間に、足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を配置したことを特徴とする請求項1記載の靴。

【請求項4】中底の上面に、足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を配置したことを特徴とする請求項1記載の靴。

【請求項5】足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を、中底に形成したリブに、甲革、表底、表底上面の細革と共に縫い付けたことを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の靴。

【請求項6】足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を、接着剤で固着したことを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の靴。

【請求項7】足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板が、足裏全体を覆うことが出来る面積と形状を有した全敷き形態であることを特徴とする請求項1乃至6のいずれかに記載の靴。

【請求項8】足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板が、中足骨のアーチ部を支持する凹凸部を*

2

*含む半数き形態であることを特徴とする請求項1乃至6のいずれかに記載の靴。

【図面の簡単な説明】

【図1】この考案にかかる靴の一部を断面した斜視図

【図2】同靴の幅方向に沿った縦断面図

【図3】同靴の長手方向に沿った縦断面図

【図4】足底板の斜視図

【図5】足底板の一変形を示す斜視図

【図6】足底板の平面図

【図7】図6 a-a'線に沿った断面図

【図8】図6 b-b'線に沿った断面図

【図9】図6 c-c'線に沿った断面図

【図10】足骨を示す図

【図11】図10 B-C線のアーチを示す図

【図12】図10 A-B線のアーチを示す図

【図13】足骨のアーチを支持する凹凸部の位置を示す図

【符号の説明】

(1)中底

(2)リブ

(3)甲革

(4)表革

(5)細革

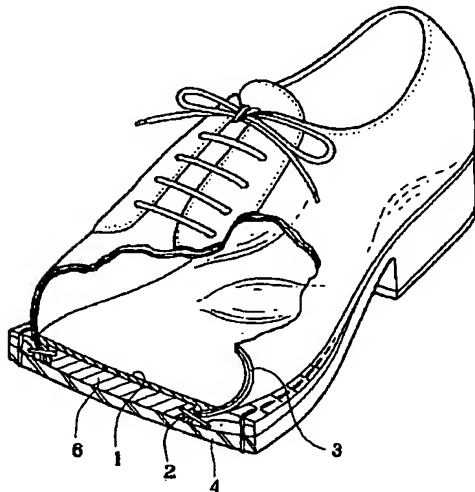
(6)足底板

(7)凹凸部

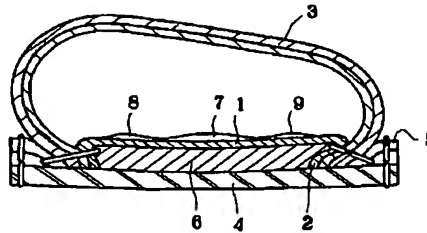
(8)凹凸部

(9)凹凸部

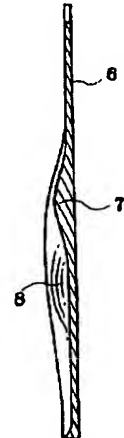
【図1】



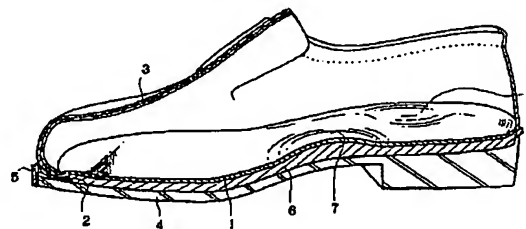
【図2】



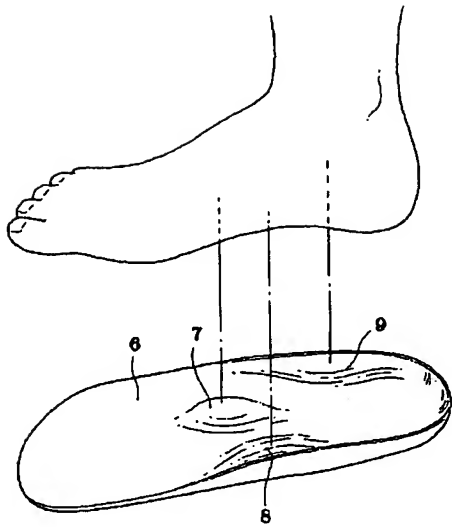
【図7】



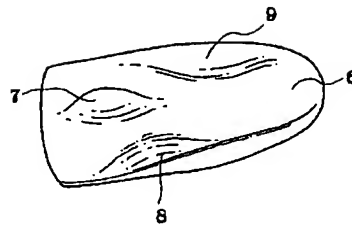
【図3】



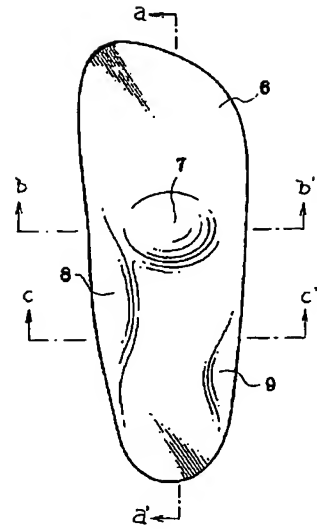
【図4】



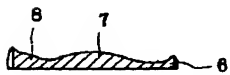
【図5】



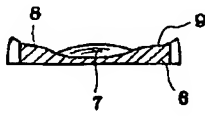
【図6】



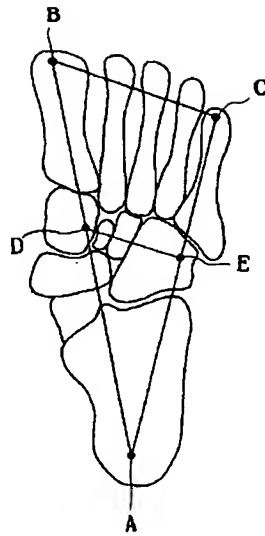
【図8】



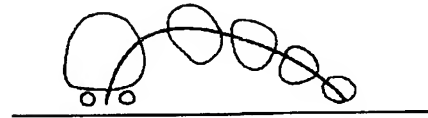
【図9】



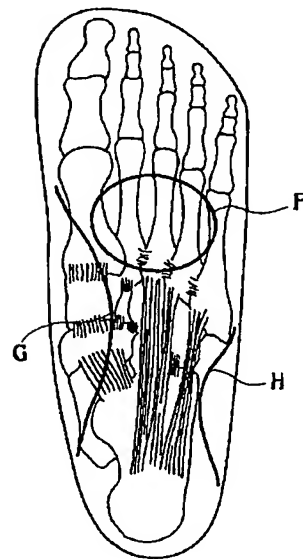
【図10】



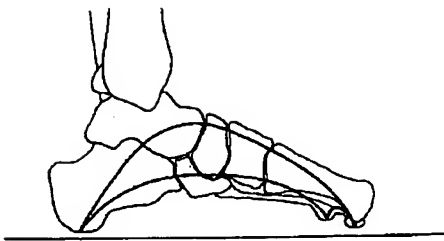
【図11】



【図13】



【図12】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する分野】**

この考案は、靴特にグッドイヤーウェルト製法で製造される靴であって、中底に足の骨のアーチを支持する凹凸部を形成した靴に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、重厚で堅牢な製靴法として、中底にリブを付け、この中底リブに甲革、表底、表底上面の細革を縫い付けるグッドイヤーウェルト製法は公知であり、丈夫で、型崩れし難く、履き込むほどに履き心地の良さが増してくると共に、表底の取り替えが可能で、半張り修理を何回でも出来る特徴を有しており、高級靴に多く用いられている製法である。しかしながら、このようなグッドイヤーウェルト製法の靴であって、中底に足のアーチを支持する凹凸部を形成したものは、従来提案されていない。

【0003】

図10～12に示すように、足の骨は、中足骨（図10のD－E線に沿った部分）を若干上方にアーチ状に湾曲した状態に保つことが、歩行時や直立時の足の疲れを少なくし、身体のバランスを保つ上で最も好ましいとされている。この中足骨のアーチは、足の幅方向のみならず、線A－B、A－Cに沿って図12に示すように足の長さ方向にも存在しているために、図13に示すような位置にアーチ部を支持する凹凸部（F、G、H）を設ける必要がある。従来公知の前記グッドイヤーウェルト製法による靴の中底は、通常ほぼ平坦に形成されており、かかる中足骨のアーチを支持し得るようなものではなかった。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

この考案は、グッドイヤーウェルト製法の靴において、中底表面に簡単に足骨の中足骨のアーチを支持する凹凸部を形成可能とすることを課題とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するためにこの考案が採った手段は、中底にリブを付け、この中底リブに甲革、表底、表底上面の細革を縫い付けると共に、足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板を配置して、中底表面に前記アーチを支持する凹凸部を形成したことを特徴とする。

【0006】

足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板は、中底自体としても、中底と表底との間に配置しても、或いは中底の上面に配置しても良い。足底板は、全敷き形態でも、半敷き形態でも良い。

【0007】

足骨の中足骨のアーチに対応した凹凸部を有する足底板は、中底に形成したリブに、甲革、表底、表底上面の細革と共に縫い付けても、接着剤で固着しても良い。

【0008】

【考案の実施の形態】

この考案の好ましい実施の形態を、以下に詳細に説明する。図面を参照して、この考案による靴は、中底(1)にリブ(2)を形成し、このリブ(2)に甲革(3)、表底(4)及び表底(4)の上面を被覆する細革(5)を縫い付ける、グッドイヤーウェルト製法で形成される。リブ(2)と甲革(3)、表底(4)及び細革(5)は、好ましくはチェーンステッチ(掬い縫い)で縫われ、表底(4)と細革(5)は、ロックステッチ(出縫い)で縫い付けられる。

【0009】

この考案は、かかるグッドイヤーウェルト製法による靴において、中底(1)自体又は中底(1)と表底(4)との間、或いは中底(1)の上面に、図4～9に示す足底板(6)を配置したことを特徴とする。足底板(6)は、前記図10～13に示される足骨の中足骨のアーチを支持する凹凸部(F、G、H)に対応した凹凸部(7)(8)(9)が形成されており、中足骨のアーチを的確に支持することが出来るようになっている。足底板(6)は、図4に示すように足裏全体を覆う全敷き形態に形成するのが好ましいが、図5に示すように凹凸部(7)(8)(9)を備えた半敷き形態であっても良い。足底板(6)は、コルク、ゴム、硬質スポンジ等で形成される

。足底板(6)は、標準的な凹凸部を有するものを組み込んで大量生産しても良いが、使用者の足型を採って個々の使用者に適合した足底板を作成する注文生産としても良い。

【0010】

中底(1)自体を足底板(6)で形成する場合、中底(1)と表底(4)との間に中物芯が介挿され、足底板(6)の表面は、従来周知のように敷き革で被覆される。又、中底(1)の下に足底板(6)が配置される場合には、中底(1)は足底板(6)の凹凸部が充分に表出されるような、柔軟で薄い材料が用いられる。中底(1)の表面に足底板(6)を配置する場合、足底板(6)の表面は、敷き革で被覆される。足底板(6)は、グッドイヤーウェルト製法に従って、中底のリブ(2)に縫い付けても、或いは接着剤で固着しても良い。

【0011】

【考案の効果】

この考案によれば、グッドイヤーウェルト製法で形成される靴の底に、足の中足骨のアーチを支持する凹凸部を簡単に形成することが出来る。